

V 高等部の教育課程

1 高等部の教育目標

- (1) 知識、技能、体力の向上を図るとともに、健康で明るい心を育てる。
(心身ともに健康で明るい生徒)
- (2) 日常生活を豊かにする生活習慣の形成を図る。
(身の回りのことに主体的に取り組む生徒)
- (3) 豊かな情操を育み、表現力、コミュニケーション能力を高める。
(心豊かで思いやりのある生徒)
- (4) 主体的に行動し最後まで頑張り抜く力を育てる。
(目標達成のために最後まで努力する生徒)
- (5) 自立、社会参加・貢献を目指し、勤労及び生涯学習への意欲を高める。
(自ら考え学び行動する生徒)

2 教育課程の編成方針

- (1) 本校教育目標の共通理解を図り、幼・小・中・高等部や地域の中学校をも含めて一貫した系統性のある教育を推進する。
- (2) 本校教育目標を受け、学部目標を設定し、生徒の実態に即した学部、学年、学級経営をする。
- (3) 「学びの連続性」「途切れのない一貫した指導・支援」を重視し、幼・小・中学部からの円滑な接続に配慮した教育課程を編成する。
- (4) 基礎的・基本的内容を精選し、生活年齢を大切にした学校生活を通して、生涯学習への意欲や生涯を通じてスポーツや文化芸術活動に親しみ、豊かな生活を営むことができるよう配慮して編成する。
- (5) 生徒に対し根拠ある実態把握を行い、事物に対する見方、考え方をふまえた教科指導を基本とした教育課程を主軸に展開する。
- (6) 特に必要がある場合は、「各教科等を合わせた指導」や学習指導要領の「重複障害者等に関する教育課程の取り扱い」に基づいた編成を行い、学習指導要領の知的障害教育に係わる各教科の目標及び内容等を合わせて指導することを基本とした指導計画を作成する。
- (7) 道徳教育は道徳科及び「特別の教科道徳」を要とし、自己の生き方を考え主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるために基盤となる道徳性を養うことを目標とし教育活動全体を通して指導する。
- (8) 健康・安全教育、性教育については、生徒の発達段階に応じた指導の充実が図れるよう学校生活全体を通して適宜指導する。
- (9) 豊かな人間性や社会性を育むために、地域や近隣校との交流及び共同教育を推進し、その充実に努める。
- (10) 特別活動を中心に学ぶことと将来につながることを意識し、自立、社会参加・貢献に向け、必要な資質、能力を身に付けられるよう幼・小・中・高等部一貫した進路指導体制を取ると共にキャリア教育の充実を図る。また、キャリア・パスポートを作成、活用することで、学習を振り返り学びの定着を図れるようにする。
- (11) 個々の発達段階等に応じてICT機器の活用を位置づけ、教育活動全体を通して情報教育の充実が図れるようにする。また指導においては、情報モラルの指導を適切に位置づけた指導計画の作成を行う。
- (12) 外国語を通して外国の文化や言語に親しみ、興味・関心を深められるよう、ALTと連携した指導に努める。
- (13) 自立活動は教育活動全体を通して指導し、指導計画の作成に当たっては個別の教育支援計画を基に生徒の実態に応じた指導に努める。

3 各教科等の指導の重点

(1) 各教科

【知識及び技能／思考力、判断力、表現力等／学びに向かう力、人間性等の順で表記】

① 国 語

- ・相手に注目して話を聞いて要点を把握し、日常生活や社会生活に必要な文字や文章を読み書きする力を習得する。
- ・日常生活や社会生活を営む上で、相手の話を理解し自分の考えや思いを相手に伝える力を伸ばす。
- ・社会生活が円滑に営めるように、互いを思いやる気持ちを持って言語を運用する姿勢を身につける。

② 社 会

- ・社会参加するためのきまり、公共施設の役割と制度、情報化社会や外国との関わりを理解し、情報を収集し、活用する技能を身に付けるようにする。
- ・社会的事象への理解を深め、自分の生活と結びつけて考える力、社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことを適切に表現する力を養う。
- ・よりよい社会を考え学習したことと社會生活に生かそうとする態度を身に付け、地域社会の一員として、共に生きる大切さについての自覚を養う。

③ 数 学

- ・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、日常での事象を数学的に処理したり表現したりする技能を身につけるようにする。
- ・日常での事柄について、見通しを持ち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質から発展的に考察していく力、事象を数学的な表現を用いて表現する力を養う。
- ・数学的活動の楽しさや数学の良さに気づき、事象について多面的にとらえ粘り強く考える態度や数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

④ 理 科

- ・自然の事物・現象についての観察、実験を通して基本的な理解・技能を身に付ける。
- ・簡単な観察実験を行い、自然の事物、現象に気づく力を養う。
- ・自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に日常的に活かそうとする態度を養う。

⑤ 音 楽

- ・曲想と音楽の構造や音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。
- ・音楽表現を創意工夫することや、音や音楽の良さや美しさを感じながら、聴いたり表現したりすることができる。
- ・主体的・共同的に音楽活動に取り組み、その楽しさを体験することを通して、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

⑥ 美 術

- ・意図に応じて、材料や用具の特性を生かし、自分らしく表現できるようにする。
- ・心豊かに表現する構想を練り、美術作品などの造形的な美しさを感じ取り、作者の意図と工夫などについて考えることができる。
- ・生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考え、見方や感じ方を深める。

⑦ 保健体育

- ・各種の運動を通して、基本的な技能や体力を身につけるとともに、健康・安全の大切さを理解し集団の決まりや簡単なルールを守る。
- ・運動の楽しさや喜びを味わう中で、運動や安全についての課題を発見し、その課題の解決に向けて自ら思考し判断するとともに他者に伝える力を養う。
- ・仲間と協力して、校内外における体育的行事に積極的に取り組む態度を養う。また、自己の健康の保持増進や回復に自発的に取り組む態度を養う。

⑧ 外国語

- ・外国語の音声や文字、語彙、表現などについて、日本語と外国語の違いに気づくとともに聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身につける。
- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

⑨ 情 報

- ・身近にある情報機器の操作の習得を図り、情報社会に参画する上で、必要な知識・技能及び情報モラルを習得する。
- ・身近にある情報と情報技術を適切に活用し、自らの考えを表現できる。
- ・問題を解決するために、主体的に情報を収集・整理・発信を行い、情報社会に係わる態度を育てる。

⑩ 職 業

- ・職業生活に必要な知識及び技能を身に付ける。
- ・将来の職業生活における自己の目標や課題と向き合い、自ら工夫し改善する力を養う。
- ・将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて主体的実践的な態度を養う。

⑪ 家 庭

- ・家族及び家庭の機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについての基礎的な理解を図るとともに、それらに係わる技能を身に付けるようにする。
- ・家庭や地域における生活課題に気づき、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- ・家族や地域の人々との関わりを通して、よりよい生活の実践に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

⑫ キャリアスタディ

- ・社会生活、心身の健康、コミュニケーション能力の育成、望ましい勤労観・職業観の確立など、それぞれの社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を身につける。
- ・将来の生き方、働き方について考えを深め、課題を解決し自らの役割を果たそうとする力を高める。
- ・将来のよりよい社会生活に向けて主体的に自己を生かそうとする態度を養う。

(2) 道徳及び「特別の教科 道徳」

- ・望ましい生活習慣を身に付け、自主・自律の精神を重んじ、責任ある行動をする態度を養う。
- ・礼儀正しく、思いやりをもって人と接するとともに、広い心をもって異なる意見や立場を尊重し、経験を通して人間関係を築いていく態度を養う。
- ・法やきまりの意義を理解し、社会の一員として働くことや社会参加することの充実感を味わう態度を養う。
- ・自然の偉大さやかけがえのない生命の尊さを理解し人間として生きる喜びを感じる心を育てる。

(3) 特別活動

- ・集団活動を通して望ましい人間関係を形成し、規律や協力することの大切さを学ぶ。
- ・集団の一員としての自己の役割を理解し、皆と協力して責任を果たそうとする態度を育てる。
- ・よりよい社会生活に向けて自己を生かすための能力や態度を養う。

(4) 自立活動

個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するためには必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、心身の調和的発達の基盤を培う。

① 健康の保持

日常生活を行うために必要な生活のリズムや生活習慣の形成、健康状態の維持・改善を図る。

② 心理的な安定

情緒の安定を図り、状況の理解と変化に対応できるように指導する。

③ 人間関係の形成

自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加への基盤を培う。

(5) 総合的な探究の時間

- ・生徒の興味・関心等に基づき主体的かつ創意工夫を生かした学習活動を行う。
- ・校内外における実習、交流学習等の体験活動を通して、集団の中で協力しあい、課題を解決する資質や能力を育てる。

(6) 各教科等を合わせた指導

- ・各教科、領域等の目標を捉えて必要に応じて設定し適切に指導する。

4 交流及び共同学習の重点

- ・他校の同世代の仲間達との交流を通じ、自己理解、他者理解を深める。
- ・地域との交流を通して、協調性や社会性を培う。

5 生徒指導の重点

- ・家庭や地域、関係機関との連携を密にし、個々の生徒の発達段階や障害の状態に応じて、基本的生活習慣の形成、社会生活に必要な能力を養う。
- ・個々の生徒の発達段階や障害の状況に応じて、高校生として望ましい行動をとることができるようとする。

6 キャリア教育の重点

- ・全ての教育活動を通して、主体的に生きる力を獲得できるよう指導（支援）する。
- ・「校内における実習」や「産業現場等における実習」等を通して、自己の能力や適正を把握し、自らの進路を選択できるようにする。

7 生涯学習への意欲を高める指導の重点

- ・スポーツや文化芸術活動に親しみ、在学中から地域における活動に参加し楽しむ態度を養う。
- ・将来の豊かな生活へ興味関心を持ち、生涯学習の意義や必要性について考える。
- ・地域社会でのスポーツや文化的芸術的な学習機会に参加し施設利用ができるようにする。

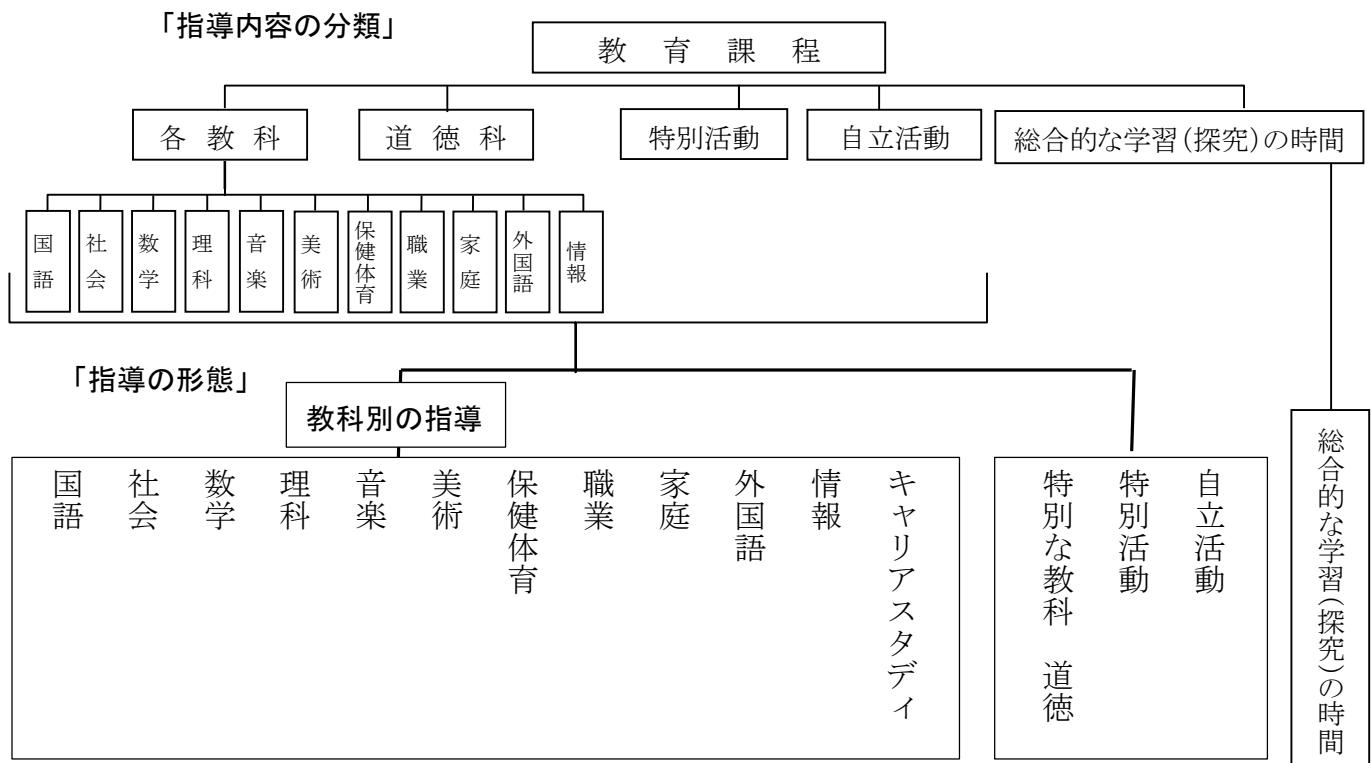
8 安全教育の重点

- ・交通ルールや集団行動における規律等を理解し、健康で安全な生活を営むための知識や態度を身に付ける。
- ・校外学習や避難訓練、性教育指導等で学んだ事を実際の生活の中で活用することができる。
- ・社会生活の中でルールや規律を守り、健康で安全な生活を意識し主体的に取り組む態度を養う。

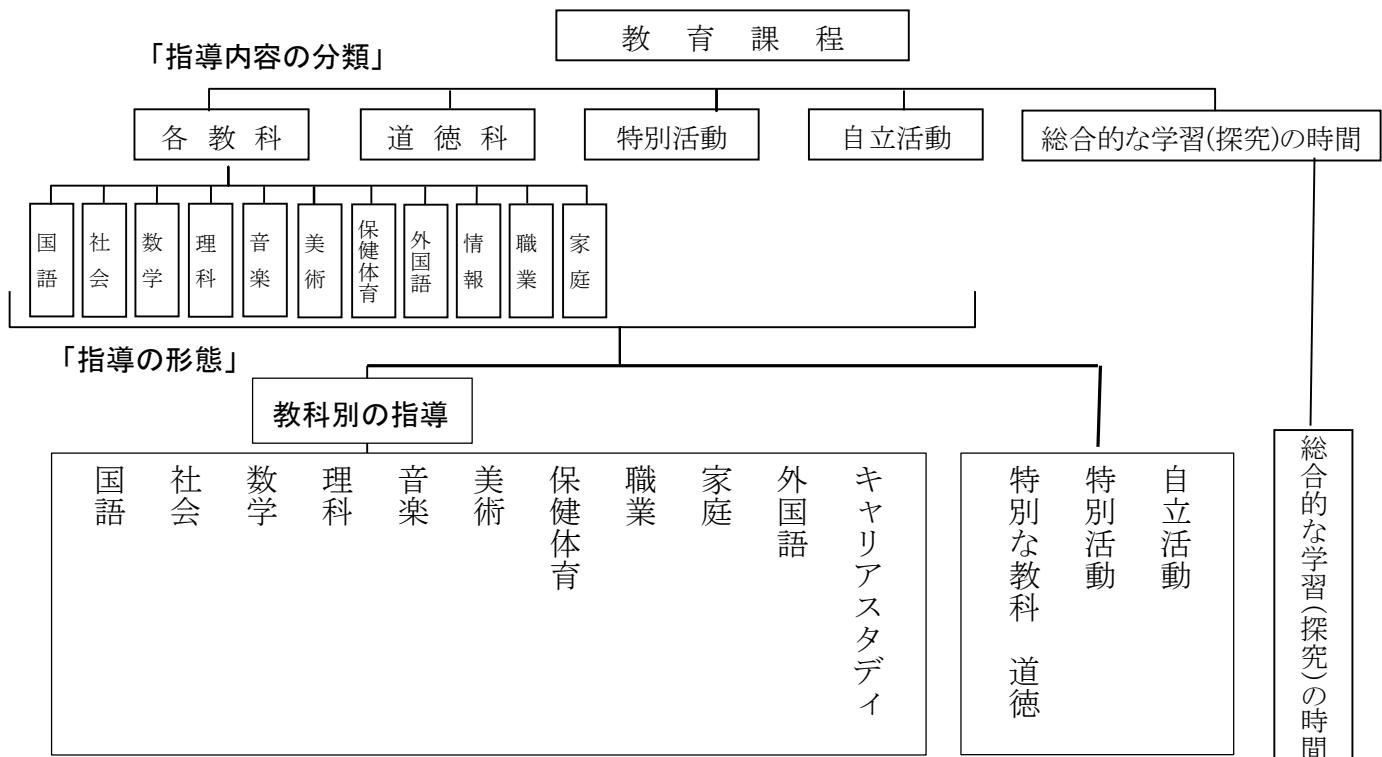
9 指導形態

(1) 教育課程の構造

① II 課程A類型



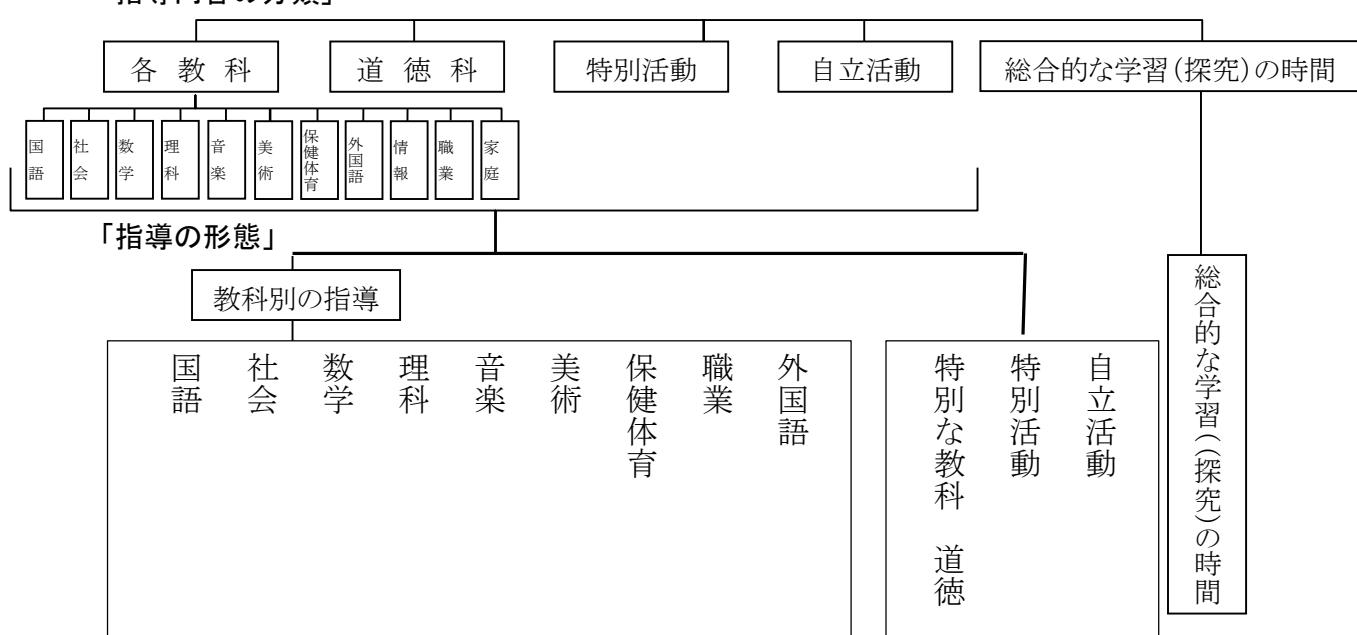
② II 課程B1類型



③ II 課程B 2類型

「指導内容の分類」

教 育 課 程



※令和元年度入学生のみ「総合的な学習の時間」の名称

(3) 指導のための集団構成の在り方、考え方等

- ①学年合同による指導やグループ指導を行う。
- ②教科別指導は、習熟度別にグループを編成し指導する。

10, 日課表

校時	時 間		月	火	水	木	金
SHR	8:45~9:00	15分	登校・SHR				
1	9:00~9:50	50分	1	7	13	19	25
9:50~10:00		10分	休み時間				
2	10:00~10:50	50分	2	8	14	20	26
10:50~10:55		5分	休み時間				
3	10:55~11:45	50分	3	9	15	21	27
11:45~11:50		5分	休み時間				
4	11:50~12:40	50分	4	10	16	22	28
給食	12:40~13:15	35分	給食				
13:15~13:25		10分	休み時間				
5	13:25~14:15	50分	5	11	17	23	29
14:15~14:20		5分	休み時間				
6	14:20~15:10	50分	6	12	18	24	30
SHR	15:10~15:25	15分	SHR・下校				
			バス下校 (15:25)				

※校外学習や行事等により、下校時間を変更することがある。